

ぎのわんの 歴史・文化遺産を 歩く 其の20

「キャンプ瑞慶覧⑪」

はじめに

今日は西普天間住宅地区の一部で市教育委員会が昨年度に実施した試掘調査の成果を速報としてご紹介します。

試掘調査の内容

試掘調査とは、地下にある文化財（遺跡）の有無を確認する調査です。この試掘調査によって遺跡としての堆積状況や大まかな範囲を知ることができます。西普天間住宅地区では、原則30m間隔毎に4m四方の試掘坑を設定して調査を行っています。

試掘調査の成果

平成27年3月に48箇所を試掘調査を実施し、そのうち7箇所が当時の人々の生活の痕跡である遺構が確認されました。

確認された

遺構の多く

はピットと

呼ばれる20

〜30cm大の

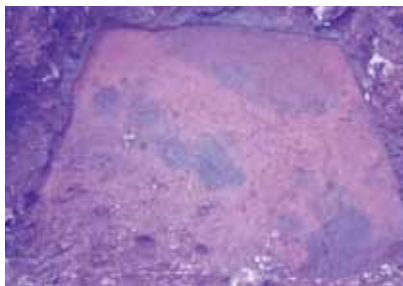
円形の穴の

跡で、住居

や倉庫など

の柱跡であ

ると考えら



柱跡と考えられるピット（黒い部分）



新城上殿遺跡（○）と確認された遺構箇所（●）

問合せ：文化課 ☎893314430

伊佐浜の土地闘争から60年

茶ぐわーゆんたく

135

今年は戦後70年をむかえ、各地でさまざまな催しが行われます。1945（昭和20）年の終戦から戦後復興を遂げ、現在に至っていますが、その間にもいろいろな事がありました。

今から60年前の1955（昭和30）年に伊佐浜に住む住民、32戸136人が米軍によって強制的に土地を奪われました。米軍は1953（昭和28）年に土地収用令を公布し、県内各地で土地収用を強行しました。同年3月には、伊佐浜で約3万坪の土地が接収され、同時期に伊江島でも接収が起りました。

1955年7月に米軍は、さらに10万坪の土地接収を通告しました。伊佐浜の住民は「農民の命土地を守れ」「金は一年土地は万年」の幟を立てて反対しました。7月19日の早朝、米軍は伊佐浜の周囲をバリケードで張りめぐらし、ブルドーザーやクレーン車で家屋を取り壊し、サルベージ船で北谷沖から土砂をすくい上げて伊佐浜の田畑を埋めました。突然の出来事に住民は驚き、戸惑いを隠し切れない状況でした。住む家を失った住民は、大山小学校に仮設された住居で過ごした後、一部は沖縄市高原の俗称「インヌミヤードウイ」へ移動しました。移住した住民は、トタン葺きの規格住宅を建て、小石の多い畑を耕しながらの生活を始めました。荒れた土地での新生活に追い打ちをかけるように台風被

害、生活援助費の打ち切りと度重なる苦勞にうちひしがれた住民の中には、南米へ移住した方もいました。

伊佐浜の土地闘争から60年。現在のキャンプ瑞慶覧内にあった伊佐浜には、沖縄一の美田と言われるほどの田園風景が広がっていました。今ではその面影もなく、基地施設が並んでいるだけです。でもそこで生活した人びとの記憶には、かつての光景が残っています。わたし達はその記憶を聞き取り、記録として残し、後世へ正しく語り継ぐことが必要な時期にあると感じます。



▲伊佐浜の土地闘争では各地からの支援者も集まった 1955（昭和30）年

「宜野湾市史」への問合せ
市立博物館 ☎870-9317